

文献 24

堤野孟, 田口辰樹. 運動負荷のストレスに対する鍼治療の効果について. 東洋療法学校協会学会誌. 2008; 31: 146-149. 医中誌 Web ID 2008140034.

1. 目的

運動負荷ストレスによる G/L 比(顆粒球/リンパ球)に対する鍼治療の影響を検討した。

2. 研究デザイン

比較試験 クロスオーバー (cross-over)

3. セッティング

記載なし。

4. 参加者

健常人(日常的に運動を行っていない)(スポーツ障害類(疾患名): 記載なし) 6 名、性別: 男 4 名、女 2 名、平均年齢: 20.8 歳

5. 介入

Arm1: 治療—無治療群 3 名

Arm2: 無治療—治療群 3 名

※無治療は安静

選穴: 心兪と陽陵泉

方法: 毫鍼(40mm20 号)を用いて深度 1cm で置針 15 分。運動負荷前に施術した。

運動負荷: トレッドミル 計 30 分(～10 分間まで漸増、残り 20 分間は最大心拍数の 70～80%の負荷)

術者: 記載なし。

6. 主なアウトカム評価項目

血中の G/L 比(顆粒球/リンパ球): 交感神経が優位になると 2.0 より高値を示し、副交感神経が優位になると低値を示すと言われている。

7. 主な結果

運動負荷後の G/L 比(顆粒球/リンパ球)は、鍼治療を行った場合、低値を示す傾向が見られた。

8. 結論

走運動負荷ストレス前の鍼治療は負荷後の G/L 比の上昇を抑制する傾向がある。

9. 論文中的安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

運動負荷による自律神経系の変化に対する鍼刺激の影響を血中の G/L 比を用いて検討した研究である。スポーツ領域において、鍼灸治療は傷害の治療や予防に対して用いられることが多いが、スポーツ選手の自律神経の調節に有効であることがわかれば、運動時の腹痛などの内臓症状や心身のコンディショニングなど、様々な場面で利用されることが期待できる。本研究では統計処理がされておらず傾向を見るにとどまっている点は残念だが、非常に興味深いデータを提供している。今後の研究の発展を期待したい。

11. Abstractor and date

櫻庭陽 2016. 2. 26